

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

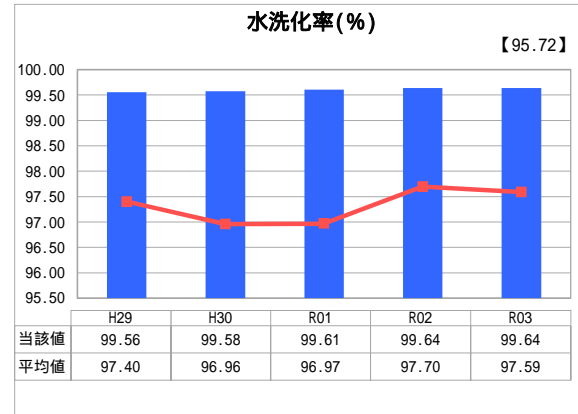
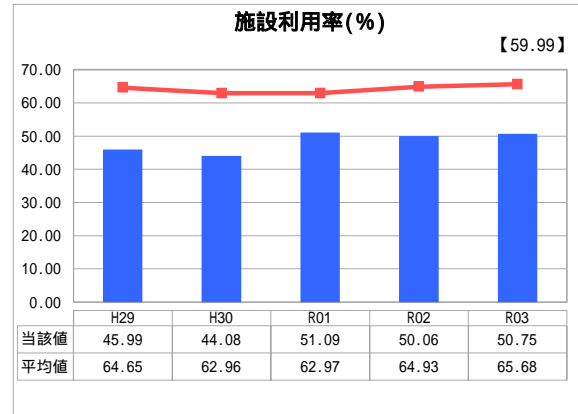
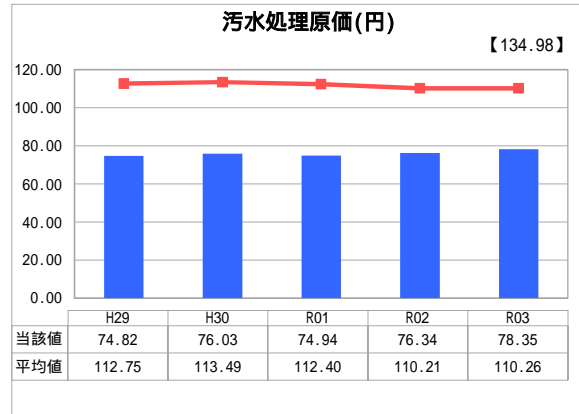
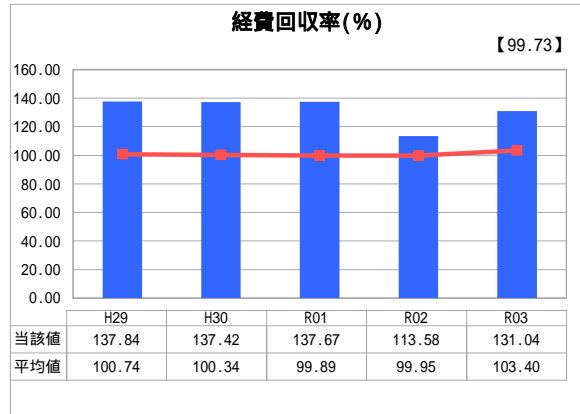
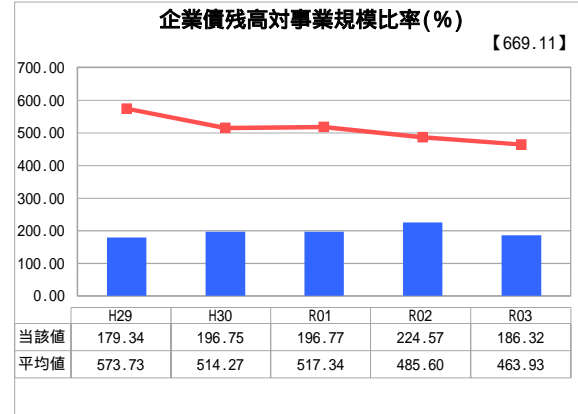
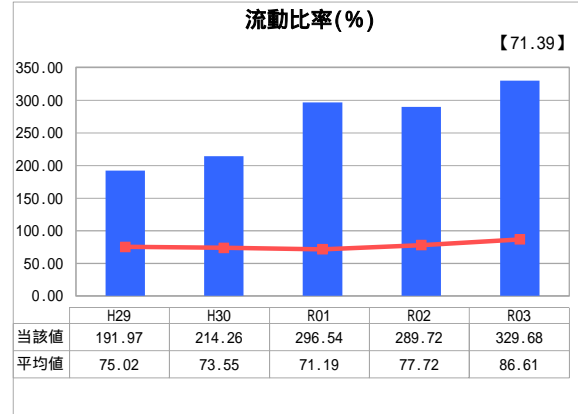
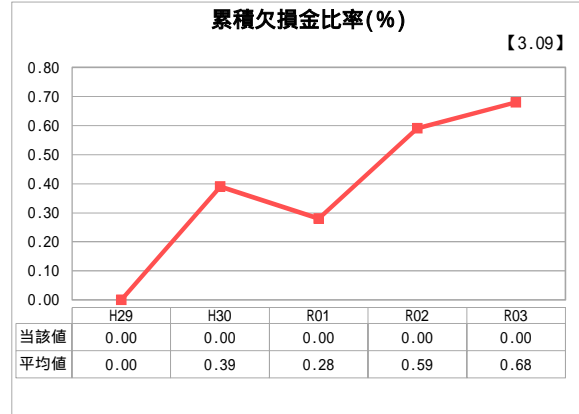
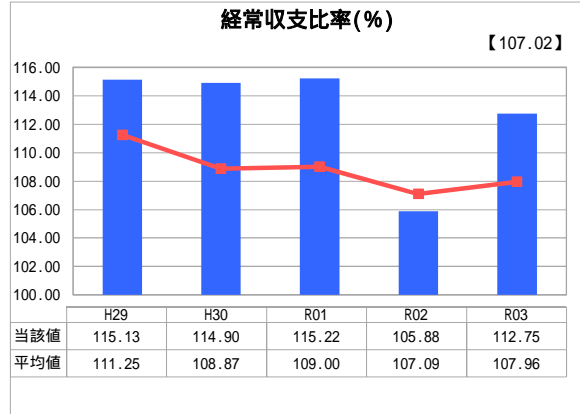
兵庫県 尼崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	80.38	99.99	73.13	1,714

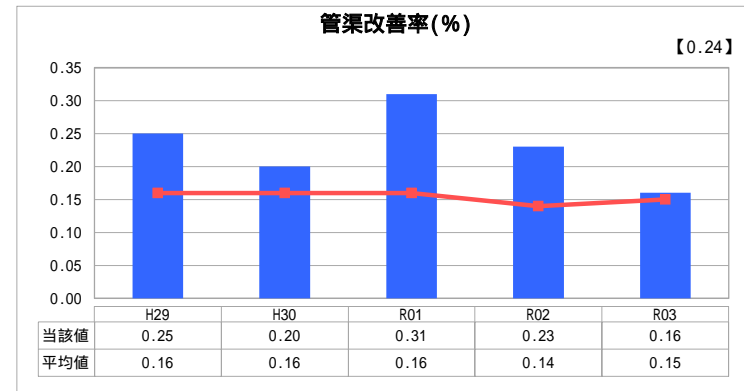
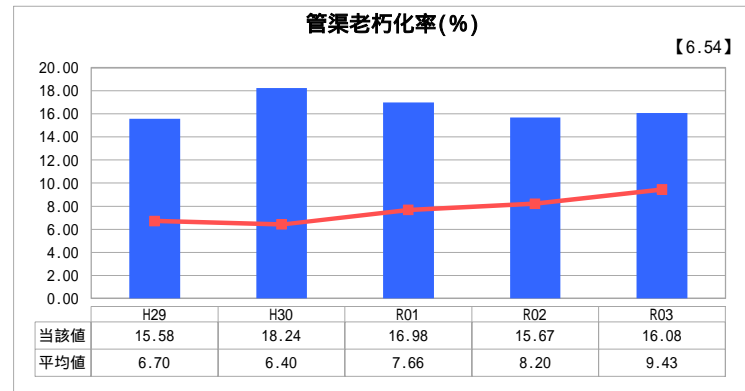
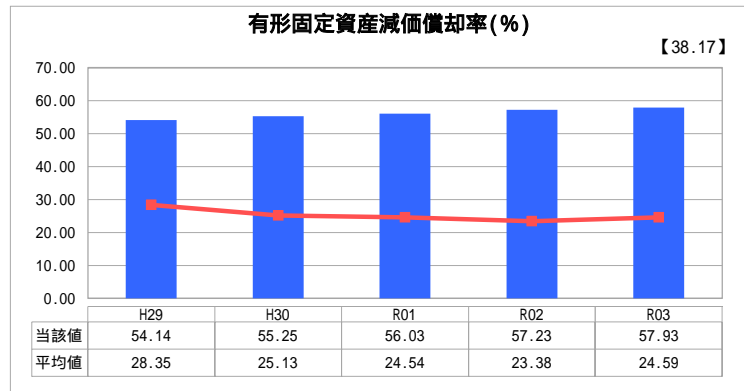
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
460,148	50.71	9,074.11
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
459,222	40.55	11,324.83

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

の経常収支比率は、100%を超えており、良好な状況にあります。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた下水道使用料の基本使用料の減免を実施したことにより、一時的に減少しています。）

の累積欠損金比率は0%であり、平成15年実施の使用料改定で累積欠損金を解消し、それ以降は発生していません。

の流動比率は、100%を超え、類似団体に比して良好な状況にあります。

の企業債残高対事業規模比率は、借入金の返済がピークを越え、企業債残高は減少しています。一方で、今後は施設、設備の老朽化に伴う更新需要が高まっているため、借入金の増加が懸念されます。

の経費回収率は、令和2年度に実施した下水道使用料の基本使用料の減免により、一時的に減少したものの、100%を超え、類似団体と比しても良好な状況にあります。

の汚水処理原価は、類似団体に比して低い水準にあり、汚水処理が効率的にできています。

の施設利用率は、類似団体に比して低い水準であり、汚水量の減少傾向により施設能力に余裕がある状況となっています。現在、高度処理を導入する等、より効率的な施設能力となるよう努めております。

の水洗化率は、類似団体に比して高い水準にあり、良好な状況にあります。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率や 管きょ老朽化率は、共に類似団体に比して高い数値となっております。特に 管きょの老朽化率は、今後さらに上昇が見込まれるところです。下水道の供用開始が早く、建設開始から約70年が経過しており、類似団体に比して施設の老朽化が顕著に表れています。

管きょ改善率は、類似団体と同程度の水準となっております。しかし、管きょ老朽化率が類似団体より高く、さらなる改築更新等の対策を推進していく必要があると考えております。

## 全体総括

尼崎市は、市域が北から南へとほぼ平坦で緩やかな勾配を持ち、人口密度が高いという状況の中、下水道には次の特性があります。

下水道整備を昭和28年と早期に着手したこと、下水の処理は汚水と雨水を同時に集水する合流式が90%以上であること、

市域を分け、一方を市で、他方を県で分担し下水の処理を行うこととしたこと、これらにより経済的・効率的に整備を行ってきております。

近年の財政状況は、損益収支で黒字基調が続いているものの、収入の根幹となる汚水排出量が減少傾向にあることなどで現在の黒字幅が縮小していく見込みです。

このような中、老朽化施設の改築更新、局地的な集中豪雨等への浸水対策、地震対策など多額の経費を要する事業を着実に実施していく必要があり、「尼崎市下水道中期ビジョン（計画期間：平成24年度～令和3年度）」に基づき、事業費の平準化を図りつつ、安定的な事業運営を行ってまいりました。

令和4年度からは「あまがさき下水道ビジョン2031（計画期間：令和4～令和13年度）」に基づき、安定経営の継続に向け取り組んでいるところです。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。